

OPTiM Biz ver.10.4.0 バージョンアップ説明資料

株式会社オプティム

バージョン	更新日	更新内容
1.0	2026/1/8	初版を掲載しました。
1.1	2026/1/20	以下のページを追加しました。 Mac端末がADEにより自動キッティング可能に（7/7） iOS版Optimal Biz Browserアプリの年齢制限の下限引き下げ iOS版各種オプションアプリのバージョンアップ

目次

1. [本資料の目的](#)
2. [バージョンアップ日程](#)
3. [対応内容一覧](#)
4. [アップデート対象のアプリ一覧](#)
5. [管理サイト](#)
6. [iOS/iPadOS](#)
7. [Android](#)
8. [Windows](#)
9. [macOS](#)
10. [その他 対応内容](#)
11. [アップデート後の作業](#)

- 本資料は、OPTiM Bizのバージョンアップ実施に伴う変更点を、ご利用者もしくはパートナーの皆様が、ご理解いただくことを目的としたものです。
- 変更点は、新機能追加、既存機能拡充、仕様変更を主に含みます。
- 本資料読了後、「この変更点はなぜあるのか、目的はなにか、どのようなユースケースを想定するか」等が分かることを重視して記載をします。

□ バージョンアップ日程

- 対象：管理サイト
2026年2月8日(日)10:00-18:00の間
- 上記時刻の間でメンテナンスのため、5時間程度、管理画面の表示および機器の同期ができなくなります。
- また上記時間中に管理サイトへのアクセスがあった場合「メンテナンス中もしくは回線混雑によりただいまアクセスできなくなっております。」のメッセージが表示されます。

管理サイト 対応内容		Windows 機能一覧	
UI改善	マニュアルサイトのURL・UI変更	不具合改修	Zone Managementの正常な情報取得不可時のゾーン判定方法の変更
新規機能追加	OPTiM IDとのユーザー情報の連携が可能に	不具合改修	Windows機器のアプリ一覧情報における内容重複事象解消
新規機能追加	機器一覧のIPアドレスでの検索が可能に	不具合改修	特定の場合に機器レポート作成画面で「位置」が表示されない事象の改修
不具合改修	言語設定が英語のときに正常にCSVインポートできるよう改修	不具合改修	位置情報取得不可時にエージェントが再起動する場合がある事象の改修
不具合改修	iOS/Android SIMステータス変更検知の誤検知解消	macOS 機能一覧	
不具合改修	特定操作で権限不足でもADE機器管理画面にアクセス可能な不具合の解消	新規機能追加	Mac端末がADEにより自動キック可能に
iOS/iPadOS 機能一覧		不具合改修	特定操作で権限不足でもADE機器管理画面にアクセス可能な不具合の解消
UI改善	「強制バージョンアップ」の機能名を「アプリ最新化」に変更	その他 対応内容	
既存機能拡充	構成プロファイル内で使用しているプロファイルのリンク化	その他	iOS版Optimal Biz Browserアプリの年齢制限の下限引き下げ
不具合改修	端末再起動後に自動で位置情報を取得できない事象の改修	その他	iOS版各種オプションアプリのバージョンアップ
Android 機能一覧		その他	Optimal Biz GadgetアプリをAndroid15/16に最適化
既存機能拡充	アプリストアレイアウトを元に戻せるようにする		
不具合改修	Zone Management機能で、端末がゾーン内にある場合にそのゾーン設定の変更を行っても反映されない事象の改修		

アップデート対象のアプリ一覧

- バージョンアップ内容をご利用のお客様は、該当のアプリをアップデートしてください。

OS	対象アプリ	バージョン
iOS/iPadOS	iOS/iPadOSエージェント	10.4.0
	Optimal Biz App Catalog (iOS)	2.15.0
	Optimal Biz Browser (iOS)	2.12.1
	Optimal Biz Docs (iOS)	1.10.1
Android	ストア版Androidエージェント	10.4.0
	Optimal Biz Gadget Androidアプリ	1.5.0
Windows	Windowsエージェント	10.4.0
macOS	macOSエージェント	10.3.1

管理サイト

マニュアルサイトのURL・UI変更

□ 概要

- OPTiM Bizのマニュアルサイト、FAQ、用語集のURLおよびUIを変更します。

□ 内容

- マニュアルサイトのURLおよびUIを変更します。

- ◆ 変更前：<https://biz3.optim.co.jp/help/manual>
- ◆ 変更後：<https://biz-support.sgp.ai.optim.cloud/>
- ◆ 管理サイト右下に表示される「マニュアル」ボタンのリンク先も変更となります。
- ◆ ※旧URLにアクセスした場合、ver.10.4.0時点では新URLへリダイレクトされますが、ver.10.5.0（2026年4月以降）にて当該リダイレクトは削除される予定です。

- よくあるご質問（FAQ）のURLを変更します。

- ◆ 変更前：<https://support.optim.co.jp/opproduct/Biz3/web/index.html>
- ◆ 変更後：<https://biz-support.sgp.ai.optim.cloud/ja/faq/v2>
- ◆ ※FAQサイトは2026年3月31日をもって旧URLは削除されます。

- 用語集のURLを変更します。

- ◆ 変更前：
<https://support.optim.co.jp/opproduct/Biz3/web/knowledgeList.html?keyword=%E7%94%A8%E8%AA%9E%E9%9B%86%E4%B8%80%E8%A6%A7>
- ◆ 変更後：https://biz-support.sgp.ai.optim.cloud/ja/faq/v2/search_result?tag_ids=c5fe3d3a-9874-49fa-993e-8f8b212c17fc&page=1&per_page=25&sort=desc&is_highlight=false

- 上記のページのURLをブックマークに登録されている場合は、お手数ですが変更をお願いいたします。



□ 概要

- サービス環境設定から、OPTiM IDにおける登録企業との情報連携ができるようになります。

□ 内容

- 設定 > サービス環境設定に「OPTiM ID連携」のメニューを追加します。
- OPTiM IDとの連携を行うと、登録ユーザーのメールアドレスを突合し、OPTiM IDのユーザー情報がOPTiM Bizに同期されます。
 - ◆ このとき、OPTiM IDのユーザーがOPTiM Bizに存在しない場合、OPTiM IDの情報を元にOPTiM Bizにアカウントが新規作成されます。
 - 新規作成されたユーザーの権限は、OPTiM IDで設定している権限が参照され、OPTiM Bizでは管理者または一般の権限が付与されます。
以降OPTiM Bizに作成されたユーザーの権限を変える場合は、OPTiM Biz上での変更、操作を行う必要があります。
OPTiM Bizでユーザーの権限を変えても、OPTiM ID側には反映されません。
 - ◆ OPTiM IDと同じメールアドレスを持つユーザーがOPTiM Bizにすでに登録されている場合、OPTiM IDの情報に合わせてOPTiM Bizの登録情報が上書きされます。上書きされる情報は以下のとおりで、権限は上書きされません。
 - ユーザーの姓名、メールアドレス、メンバーID、権限(上書きなし)
- ユーザーCSVにメンバーIDが出力されるようになります。メンバーIDの確認のみが可能で、CSVからのメンバーID編集・削除はできません。
- 連携後は、OPTiM IDでユーザー情報を変更すると、定期的にOPTiM Bizのユーザー情報が深夜に更新されます。

□ 効果

- オプティム製品の共通IDであるOPTiM IDをOPTiM Bizでも連携できるようになります。
 - ◆ OPTiM IDは、OPTiM Biz PremiumやID+オプションをご利用の場合や、オプティムの他サービスを利用されている場合にもユーザー情報として利用できます。

□ 諸条件

- 連携前に、OPTiM IDにお客様自身でサインアップする必要があります
- ユーザー同期を行うためには、サービス環境設定からOPTiM ID連携を完了させている必要があります
- LDAP連携と本設定の併用はできません。現在LDAP連携をご利用中で、新たにOPTiM ID連携をご利用になりたい場合は、LDAP連携設定を削除する必要があります

□ 注意点

- ユーザー一覧画面での「OPTiM ID連携」のパネルにおけるメンバーIDの編集・削除ができなくなります。OPTiM ID連携を有効にしている環境では、メンバーIDがOPTiM IDから自動的に同期されるため、手動での変更はできず、閲覧のみ可能となります。
- オプティム製品におけるユーザー管理を一本化することが目的の機能であるため、連携後にOPTiM IDからユーザーが削除された場合、原則OPTiM Bizでもユーザー削除を行います。
 - ◆ ただし、Android Enterprise連携済み機器に紐づいているユーザーをOPTiM IDで削除した場合、OPTiM BizではOPTiM IDと連携しているメンバーIDのみが削除されます。OPTiM Bizのユーザーは残るため機器管理は継続できますが、メンバーIDがないユーザーはOPTiM IDを用いてのOPTiM Bizへログインやデバイス認証はできなくなります。
- バージョンアップ前に「OPTiM IDでログイン」機能をご利用いただいているお客様は、本バージョンアップによりOPTiM IDの企業のすべてのユーザーがOPTiM Bizに同期されます。また、メンバーIDがOPTiM Bizにすでに登録されているユーザーの情報については、OPTiM IDの情報で上書きされます。あらかじめご了承ください。

□ 概要

- 機器一覧の機器検索画面で、IPアドレスでの検索ができるようになります。

□ 内容

- 機器一覧の機器検索画面で、IPアドレスを持つすべての機器の検索ができるようになります。
 - ◆ 機器検索項目に「IPアドレス」という選択肢を追加します。
 - ◆ ローカルIP/グローバルIP含め、部分一致での検索が可能です。
- Wi-Fi接続先の変更などによりIPアドレスが変わった場合、検索には「最後に同期したIPアドレス」が使用されます。

□ 注意点

- 検索結果にIPアドレスは表示されません。端末のIPアドレスは機器詳細の『情報 > デバイス』から確認できます。
- Android専用デバイス及び認証待ち機器ではIPアドレスを保持していないため、検索結果には表示されません。
- 旧デザインを利用している場合、IPアドレスでの検索機能は使用できません。

言語設定が英語のときに正常にCSVインポートできるよう改修

□ 概要

- 管理サイトの設定言語が英語の場合に、CSVインポートが正常に行われるように改修します。

□ 内容

- 言語設定がEnglishの時に以下の機能におけるCSVファイルインポートが正常に実行されるように改修します。
 - ◆ 企業インポート(新規)
 - ◆ 企業インポート(変更)
 - ◆ 組織 > CSVで追加
 - ◆ 組織 > CSVで編集
 - ◆ ユーザー > CSVで追加
 - ◆ ユーザー > CSVで編集
 - ◆ 機器 > CSVで追加
 - ◆ 機器 > CSVで編集
 - ◆ 機機 > CSVで削除
 - ◆ 機器 > CSVでクライアント証明書紐付け

□ 概要

- iOSおよびAndroidにおいて、SIMステータス変更検知が抜き差ししていなくても通知する事象を解消します。

□ 内容

- iOSおよびAndroidにおいて、SIMステータス変更検知にて、SIMが抜き差しされていなくても変更が検知され、通知が出力されてしまっていた事象を解消します。
- 「電話番号」と「ICCID」*のいずれかが変更があった場合にSIMが変更したという検知を行っており、電話番号について、同期の際にまれに取得できないことがある場合があり、電話番号が変更されたと認識して通知を送信していたために発生していた事象でした。このため、「ICCID」*の変更のみの検知に修正します。

*ICCIDはそれぞれのSIMカードに固有の識別番号として割り当てられている番号です。

□ 注意点

- 契約変更などで電話番号を変更した場合でも、ICCIDに変更がなければSIMステータス変更検知のログは出力されません。

□ 概要

- ロックワイプ権限ユーザーでもiOS設定およびMac OS設定のADE機器管理画面にアクセスできてしまう不具合を解消します。

□ 内容

- URLを入力すればロックワイプ権限ユーザーでもiOS設定およびMac OS設定のADE機器管理画面にアクセスできてしまう不具合を解消します。

iOS/iPadOS

「強制バージョンアップ」の機能名を「アプリ最新化」に変更



□ 概要

- 「強制アップデート」または「強制バージョンアップ」という機能名称を「アプリ最新化」に変更します。

□ 内容

- 以下の画面において「強制アップデート」または「強制バージョンアップ」という名称で提供してきました機能は、端末の状況にかかわらずアプリのバージョンアップが必ず実行されるという機能ではないため、機能名称を実際の挙動に合わせて「アプリ最新化」に変更します。
 - ◆ 管理サイト > 機器 > アプリケーション情報 > 特定のアプリケーション詳細画面
 - ◆ アプリカタログのアプリ詳細画面

□ 諸条件

- 今回の機能名変更では管理サイト及びアプリカタログそれぞれに独立して変更が加えるため、OPTiM Bizのバージョンが管理サイトおよびアプリカタログが共に10.4.0 以上でない場合には、旧表記（「強制バージョンアップ」あるいは「強制アップデート」）と新表記（「アプリ最新化」）が入り混じる可能性があります。ただし、管理サイトおよびアプリカタログが共に 10.4.0 以上でない場合であっても、機能に不都合が生じる（エラーが発生するなど）ことはありません。

□ 注意点

- ログの出力文言が変更になります。特定のテキストでログの自動振り分けをしている場合に、振り分け設定を変更する必要がある場合があります。

構成プロファイル内で使用しているプロファイルのリンク化



□ 概要

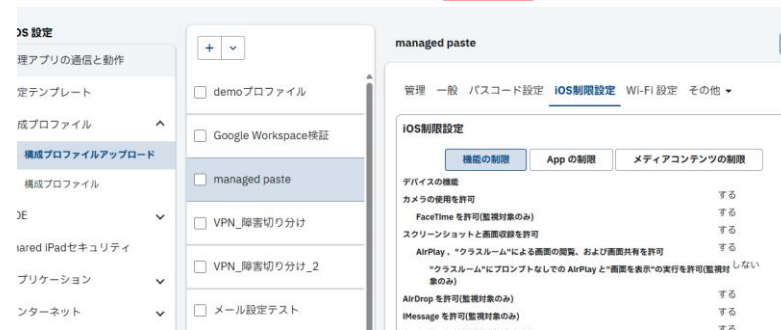
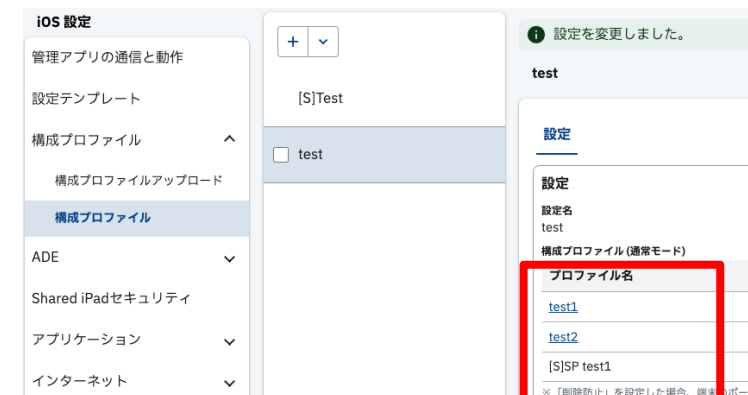
- 構成プロファイルで使用しているプロファイルをリンク化し、クリックで内容を確認できるようにします。

□ 内容

- 設定 > iOS > 構成プロファイル > 構成プロファイル の画面において、作成済みの構成プロファイル内で使用されているプロファイルをリンク化します。
- リンクをクリックすると、構成プロファイルアップロード画面が開き、個別の構成プロファイルで設定している内容が確認できるようになります。

□ 注意点

- 構成プロファイルアップロードにプロファイルが10件以上存在していて、対象のプロファイルが11件目以降の場合、プロファイルの詳細は開くものの、サイドパネルでプロファイルが選択されている状態（薄い青色）になりません。
- 編集できない構成プロファイルの場合、リンクは表示されません。



□ 概要

- 端末を再起動した後に、iOSエージェントを手動で起動しなければ位置情報が取得できない事象を解消します。

□ 内容

- 端末を再起動した場合、iOSエージェントを手動で起動するまでは一定以上の距離を移動しても位置情報が取得できない事象を解消します。

□ 注意点

- 位置情報の取得タイミングはOSの判断により不定期に実行されます。
- 再起動後、初回の位置情報取得が行われるタイミングはOSに依存するため、即座に取得されるわけではありません。

Android

□ 概要

- Android Enterpriseアプリケーション配信時に、 managed Google Playストアのコレクション機能で変更したストアレイアウト設定を初期状態へ戻す機能を追加します。

□ 内容

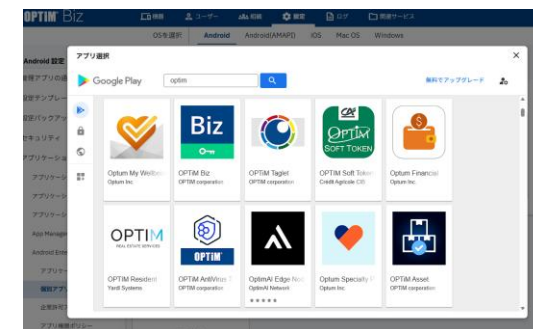
- Android Enterpriseアプリケーション配信のアプリ選択ウィンドウにおけるアプリコレクション機能で変更したmanaged Google Play ストアの表示に関するレイアウト設定を初期状態へ戻す機能を追加します。
 - ◆ Android Enterpriseアプリケーション配信設定の「個別アプリケーション」や「企業許可アプリ」設定から表示できるアプリの選択画面*にて、左メニューから「アプリの整理」を押下するとストアレイアウトをカスタマイズできます。しかし、一度設定すると変更は行えてもリセットは行えませんでした。
- 設定 > Android > Android Enterpriseの配下に「ストアレイアウトリセット」のページを追加し、リセットボタンを追加します。



ストアレイアウトリセットを行います。よろしければ「OK」ボタンをクリックしてください。



*アプリの選択画面



Zone Management機能で、端末がゾーン内にある場合にそのゾーン設定の変更を行っても反映されない事象の改修



□ 概要

- Zone Management機能において、ゾーン内に端末がある場合、そのゾーンの設定変更が即時反映されない事象を改修します。

□ 内容

- Zone Management機能において、ゾーン内に端末がある場合に、OPTiM Bizからそのゾーンの設定の変更を行っても、「ゾーン」設定の変更が即時反映されない事象を改修します。
- ◆ 変更内容や端末の状態によって「優先度の高いゾーン」や「ゾーン外」「ゾーン不明」などに切り替わる場合や、「ゾーン判定方式：位置情報」の場合は上記事象は発生しません。

管理

設定 - 編集

ゾーン名

ゾーン名

ネットワーク

☒ 設定を有効にする

SSID	MACアドレス	ステルス
opqa		☐ ×

(+ボタンで追加: 50件まで)

位置情報

☐ 設定を有効にする

※Windows、Androidのみ対応。
※位置情報管理で設定される測位機能でゾーン判定を行います。
※端末の位置情報の無線ネットワークとGPSが無効の場合、測位を行わず、ゾーン不明となります。
※位置情報によるゾーンの判定精度は端末や場所によって異なります。半径を300m以下に設定した場合、精度が著しく低下します。

緯度	経度	半径(m)	備考
----	----	-------	----

(+ボタンで追加: 10件まで)

スケジュール

☐ 設定を有効にする

ゾーン判定に使用するタイムゾーン:

(UTC) 協定世界時

曜日	開始時刻	終了時刻
----	------	------

(+ボタンで追加: 10件まで)

取消 保存

Windows



□ 概要

- Zone Management機能で正常にネットワーク情報が取得できない場合でもゾーン判定が可能のように改修を行います。

□ 内容

- Zone Management機能でゾーン設定の「ネットワーク」を利用している場合、無線LANアダプターの状態などによって情報が取得できないときにゾーンが切り替わらない事象を改善し、他の無線LANアダプターの情報など、取得できている情報のみでゾーン判定を行うようにします。

□ 注意点

- 無線LANアダプターの状態などにより情報が取得できない場合のゾーン変化の挙動が変化します。
 - ◆ 改修前：ゾーン変更処理が行われず、ゾーンは変化しない
 - ◆ 改修後：ゾーン変更処理が行われ、ゾーン判定結果（※1）に基づいたゾーンのポリシーが適用される
 - なお、端末状況(※2)によりエージェント起動時に事象発生した場合は以下の動作になります。
 - ◆ 改修前：常に機器の設定が適用される
 - ◆ 改修後：ゾーン判定結果（※1）に基づいたゾーンのポリシーが適用される
- ※1: 改修後は取得できた情報のみでゾーン判定が行われます。
- ※2: OS再起動後に無線LANアダプターが起動中で情報が取れない状況など

□ 概要

- 特定の条件のもとでWindowsの同期を行うと、アプリケーション情報が重複して表示される事象を改修します。

□ 内容

- 下記条件をすべて満たしているときにWindowsの同期を行うと、アプリケーション情報が重複して表示される事象の改修を行います。
 - ◆ 管理サイトにおける 1 つのWindows機器名に複数端末が紐づいた状態*
 - ◆ 該当機器に対して同期が同時に発生している
- *この状態での運用は非サポート対象となります。
- アプリケーション情報が重複して表示されていたデータについては、削除します。

□ 概要

- Windowsのみを利用されている場合に、機器レポート作成画面で「位置」チェックボックスが表示されない事象を改修します。

□ 内容

- Windowsのみライセンスが付与されている利用企業において、機器レポート作成画面で「位置」チェックボックスが表示されない事象を修正し、表示されるように改修します。
 - ◆ iOS、Androidのライセンスが付与されている場合には、本事象は発生しません。

□ 注意点

- 該当する環境でのCSV出力に以下の位置情報に関する項目が追加されます。
 - ◆ [I]位置受信日時
 - ◆ [I]位置測位日時
 - ◆ [I]緯度
 - ◆ [I]経度
 - ◆ [I]測位プロバイダ

□ 概要

- OSからの位置情報が正常に取得できない場合に、Windowsエージェントが再起動する場合がある事象を修正します。

□ 内容

- 位置情報管理を設定している端末において、OSからの位置情報が正常に取得できない場合に、Windowsエージェントが再起動する場合がある事象を修正します。

macOS



□ 概要

- 年齢制限設定に関して、アプリの更新を行います。年齢制限の下限の変更や、アプリの機能の変更はございません。

□ 内容

- 年齢制限設定に関して、アプリの更新を行います。年齢制限の下限の変更はございません。
 - ◆ 現在の年齢制限の下限：4+
- アプリの機能の変更はございません。

□ 概要

- Mac端末の自動デバイス登録(ADE)に対応します。

□ 内容

- ABMに登録されたMac端末を、OPTiM Biz管理サイトからADEを利用してライセンス認証できるようになります。
ADEを利用したキッティング方法はiOSと同様です。

◆ 設定 > Mac OS配下に以下のADEメニューを追加します。

- ADEトークン登録

ADEサーバーと管理サイトを紐づけるためのトークンをABMからアップロードできます。

※iOS設定から遷移できる画面と共通になります。

- ADE定義プロファイル

自動デバイス登録用のプロファイルを作成できます。以下のメニューからADE定義プロファイルを機器に割り当てることができます。

機器 > 一覧 > 詳細 > 設定の割り当て

機器 > 全機器一括設定 > Mac OS設定

機器 > CSVで追加

機器 > CSVで編集

組織 > 一覧 > Mac OS設定

組織 > CSVで追加

組織 > CSVで編集

- ADE機器管理

ADEサーバーと同期してADE機器情報を取得、ADE機器にADE定義プロファイルを適用または解除することができます。

□ 内容（承前）

■ ADEに関する情報をOPTiM Biz管理サイトから閲覧できるようになります。

◆ 機器 > 一覧 > Mac OS機器 > 詳細 > 他の情報を見る > ADE

◆ 機器 > CSVをダウンロード > 機器レポート

● Mac OSの検索条件にADEを追加

■ 機器 > 一覧 > 詳細 > 設定の割り当て からMac端末の設定セット割り当てができるようになります。

◆ 以下で出力されるCSVファイルにMacの設定セットのカラムを追加し、CSVファイル上の設定セットを追加/編集可能にします。

機器 > CSVをダウンロード > 機器レポート

機器 > CSVで追加

機器 > CSVで編集

組織 > CSVをダウンロード

組織 > CSVで追加

組織 > CSVで編集

■ マニュアルサイトにMac OS用ABM運用マニュアルおよびASM運用マニュアルを追加します。

□ 諸条件

■ ABM/ASMに登録済みの場合

- ◆ macOS 10.9以降を搭載したMacコンピュータ

■ ABM/ASM未登録で、Apple ConfiguratorによるマニュアルADEを行う場合

- ◆ AppleシリコンまたはApple T2セキュリティチップを搭載したMacコンピュータ（Mac OS 12.0.1以降を搭載）

□ 注意点

- OPTiM BizのMac OSのADE定義プロファイルで作成した設定のみMac機器に適用できます。iOSで作成した設定は適用できません。
- バックアップ端末または復元先端末がADE機器の場合、Mac端末の復元の動作はサポート対象外となります。
- 設定 > Mac OS > ADE > ADE機器管理画面の「ADEと同期」ボタンを押下してもABM/ASMに登録済みのMac OS機器が表示されない場合があります。
その場合は、設定 > Mac OS > ADE > ADEトークン登録画面より「ADE機器再読込」ボタンを押下し、全てのADE機器情報を読み込み直してください。

画面

機器 > 一覧 > 詳細 > 設定の割り当て

機器

機器名

検索

絞り込み

検索条件:

☐	機器名	OS	電話番号	ユーザー	組織	通信日時	詳細
☐	Android機器01	iOS 8.2	09081734213			2ヶ月前	+
☐	Android機器01	Android 2.2.2	09081734213			2ヶ月前	+
☐	Firefox01	iOS 10.0				2ヶ月前	+
☐	iOS機器01	iOS 8.2	09081734213			2ヶ月前	+
☒	Mac OS機器01	Mac OS 10.9				2ヶ月前	+
☐	Office2007 licensed 2					2ヶ月前	+
☐	Office2010 licensed 1					2ヶ月前	+
☐	Office2010 licensed 2					2ヶ月前	+
☐	Office2013 licensed 1					2ヶ月前	+
☐	Office2013 unlicensed 1					2ヶ月前	+
☐	Telephony機器01	Android 2.2.2	09081734213			2ヶ月前	+
☐	Windows 10 Mobile機器01	Windows Phone 10.0.10586.545				2ヶ月前	+

Mac OS機器01

通信日時: 2025/05/28 12:11:37 同期

OS
Mac OS 10.9

電話番号
(なし)

ユーザー
(なし)

組織
(なし)

機器分類01
(未分類)

機器カスタム項目01
(なし)

管理情報の編集

設定

設定の割り当て

操作

リモートロック

他の操作を見る

情報

ログ

デバイス

エージェント

設定 > Mac OS > ADE > ADE定義プロファイル

設定 - 編集

プロファイル名

認証設定

☐ 企業コードと認証コードの入力を必須とする

サポート設定

部署名

電話番号

メールアドレス

保存

Mac端末がADEにより自動キッティング可能に（5/7）



□ 画面

■ 機器 > 全機器一括設定 > Mac OS設定

OPTiM Biz

機器 ユーザー 組織 設定 ログ

一覧

ネットワークマップ

認証手順

全機器一括設定

入力項目のカスタマイズ

メッセージ通知

CSVで追加

CSVで編集

CSVで削除

CSVでクライアント証明書紐付け

CSVをダウンロード

全ての機器
機器数: 2

全ての機器
機器数: 2

Android設定 Android(AMAPI) iOS設定 **Mac OS設定** Windows設定 その他

[ADE定義プロファイル](#) (変更後の設定を選択)

一括変更

Mac端末がADEにより自動キッティング可能に（6/7）



□ 画面

■ 組織 > 一覧 > Mac OS設定



Mac端末がADEにより自動キッティング可能に（7/7）

□ 画面

■ 設定 > Mac OS > ADE > ADE機器管理

Mac OS 設定

管理アプリの通信と動作

ADE ↑

ADEトークン登録

ADE定義プロファイル

ADE機器管理

ADEと同期 操作 ▼

シリアル番号	モデル	ユーザー	組織	ADE状態	プロファイル(適用済)	プロファイル	端末反映日時	ADEプロファイル割り当て日時	ADE登録日時	ステータス

その他 対応内容

□ 概要

- Optimal Biz Browser (iOS) アプリの年齢制限の下限を引き下げます。アプリの機能の変更はございません。

□ 内容

- 年齢制限の下限を引き下げます。
 - ◆ 現在の年齢制限の下限 : 18+
 - ◆ **引き下げ後の年齢制限の下限 : 16+**
- アプリの機能の変更はございません。

□ 概要

- 年齢制限設定に関して、アプリの更新を行います。年齢制限やアプリの機能の変更はございません。

- ◆ Optimal Biz App Catalog (iOS)
- ◆ Optimal Biz Docs iOSアプリ

□ 内容

- 年齢制限設定に関して、アプリの更新を行います。年齢制限の下限の変更はございません。
 - ◆ 現在の年齢制限の下限：4+
- アプリの機能の変更はございません。

□ 概要

- Optimal Biz GadgetのアプリをAndroid 15/16に最適化します。

□ 内容

- Optimal Biz GadgetのアプリをAndroid 15/16に最適化します。
- AndroidのEdge-to-edge表示に対応しました。

□ 注意点

- Edge-to-edge対応により背景画像の表示領域が広がるため、その分画像が引き延ばされて表示されます。そのため、Gadgetアプリで背景画像を設定している場合、アップデートを行うと背景画像の縮尺が変わり、見た目に影響が及ぶ可能性があります。

□ 制約事項

- OS バージョンに関わらず 3 ボタンナビゲーションバーが端末の左側に配置されている場合、ドロワーメニューが引き出せないことがあります。
 - ◆ 縦画面で表示している場合や、ジェスチャーナビゲーションを設定している場合は発生しません。

本バージョンリリース後の作業

iOS/iPadOS

構成プロファイルの更新は不要です。関連アプリは、App Storeから新バージョンをインストールしてください。

Android

Androidエージェントおよび関連アプリをユーザーによってGoogle Playより手動でアップデートしていただくか、管理者によりmanaged Google Playを利用し、端末へ配信してください。

managed Google Playをご利用の場合、該当アプリの企業許可操作が必要です。次頁に手順を記載しております。

Android(専用デバイス)で利用しているAndroid Device Policyは自動的にアップデートが行われるため、必要な操作はありません。

Windows

Windowsエージェントは自動更新されるため、アップデート作業は不要です。

※手動更新を行う場合、バージョンアップ後はアップデート要求が集中し、ダウンロードに失敗することがございます。その場合は、再度時間を空けてからお試ください。

macOS

構成プロファイルの更新は不要です。

本バージョンリリース後の作業（managed Google Play）

managed Google Playを利用してAndroidエージェントや関連アプリをアップデートする際は下記の通りです。

□ Google Playより手動でアップデートする場合

- こちらは、管理されているAndroid端末上のGoogle Play Storeから、端末ご利用者様ご本人にて当該アプリを検索し、インストールする方法です。
- 詳細手順はGoogle提供のヘルプが参考になります。
- <https://support.google.com/android/answer/9457058?hl=ja> > 「Google Playからアプリをダウンロードする」

□ managed Google Playを利用して端末へ配信する場合

- こちらは、Android Enterpriseの機能を利用して、管理サイトから端末へアプリを配信する方法です。
- （１）インストール可能なアプリを特に制限しない設定、（２）企業が許可したアプリのみインストール可能になる設定、（３）管理サイトで指定されているアプリのみインストール可能になる設定（※この設定ではサイレントインストール可能）の３種類の設定があります。
- いずれも、管理サイトリファレンスマニュアル 7.5.6 「Android Enterprise／アプリケーション配信」に詳細手順を紹介しております。

□ managed Google Playの承認操作

- こちらは、上記において（２）、（３）の設定を利用するために必要な手順です。
- 詳細な手順は、管理サイトリファレンスマニュアル 7.5.8 「Android Enterprise／企業許可アプリ」をご参照ください。

